



令和4年12月13日発行

令和4年度矯正施設所在自治体会議 関東甲信越地域部会特集

更生支援の「現在地」見えた

実は
心配で
行ってみたんです。

自

自治体は「外」に開いて文化の質を高めていきます。友好都市の交流は代表例でしょうか。共通項による連携もあります。全国門前町サミットや全国鳴砂ネットワークなど、時代を取り込んで進もうという意気込みが見えそうです。車椅子で生活をされ、小児科医である熊谷晋一郎さんは、自らの姿を知り共生を社会に働き掛けるために「仲間としての他者」を重視しています。

更生の世界で共通項を持つ自治体による「令和4年度矯正施設所在自治体会議関東甲信越地域部会」（議長・昭島市長）が10月31日に開かれました。再犯防止を軸として地域の暮らしやすさを深める話し合いを持ち、ネットワークを太くしました。

コ

コロナ禍で、令和2年度・3年度は書面での開催でしたが、今年度はオンライン方式で進められました。文字に刻まれた情報の交換もすっかりと心に届きますが、モニター上ではあるものの語り掛ける人の姿が見える、声が聞こえるということ、やはり一段と訴求力があるようでした。

地域部会には、32全ての会員自治体と44の矯正施設が参加している再犯防止の取組発表や意見交換がありました。令和元年の設立以降行ってきた連携した取組が、更生支援の「現在地」を示していたといえそうです。



スクリーンに映されたモニターに見入る参加者

更

再犯防止は
地域社会でこそ
実現。

更生支援が根ざすところは、自治体です。取組発表の中で、静岡市は地域の重要性を語りました。「再犯防止は基礎自治体が主役。地域社会でこそ実現」と力強く語りました。

「道の駅きつれがわ」では、喜連川少年院の在院者たちが育てた野菜、手作りした陶器を10月から継続して販売することに乗り出しました。栃木県さくら市の担当者が、この取組を紹介する中で、「私も心配で、実は行って見えました」と本音を明かしました。「親心」でしょうか、「仲間意識」でしょうか。こうした心の動きが、自治体においても矯正施設においても、更生支援を後押ししているのでしょうか。「更生支援文化」が生まれるところでもありそうです。

「今動いている」更生支援 深まる

「結ぶ」が存在感増すキーワードに。この視点からトピックスをまとめてみると...

災害

新型コロナウイルス感染拡大で、社会の意識は一変しました。東日本大震災も、「その前」と「その後」で意識の変化をもたらしました。「数十年に一度」という豪雨災害も相次ぎ、記憶に深く刻まれました。住民意識調査は、行政への要望や意見をストレートにすくい上げます。「特に力を入れてほしい施策」を聞くと、防災対策が上位に来ます。東京都墨田区の2020年の調査では、44.6%と前回、前々回から3回続けて最も高くなっています。防災対策の内容では、「避難所の確保・運営」、「応急物資(食糧)の確保」などが挙げられています。



法務省矯正局には平成31年に発足された法務省矯正局特別機動警備隊があります。鈴木隊長は施設内の一部を避難所として開放するなどの支援を説明しました。災害に備えて矯正施設では非常食等を備蓄していて、自治体からの物資支援が困難な場合、緊急避難的に避難者に提供することも想定しています。

東京都狛江市からは、市内の女子少年院「愛光女子学園」との防災協定の紹介がありました。学園の家庭寮(在院者と家族が宿泊面会するための施設)を、災害時に介護等が必要な方の「福祉避難所」として開放するもので、本年6月の防災訓練でも地域住民の方が実際に避難しました。

愛光女子学園からは、現在、同市と準備を進めている再犯防止等に関する包括連携協定の取組として、職員による出前講座などの地域貢献を更に進める意向を明らかにしました。

矯正施設での住民参加の防災訓練は、各地で行われるようになっています。

SDGs(持続可能な開発目標)



SDGsは今や学校で学ぶ時代になっています。2015年に国連で採択されたSDGsには、現代社会が抱える課題が列挙されていますが、これほど社会に浸透するとは思われていませんでした。国際政治学者の藤原帰一さんは言います。

「国連に関わる人がクリスマスツリーのように飾り立てた多彩で意欲的な活動目標に世論の関心が集まるとは、私には考えられなかった」。(2019年4月17日朝日新聞「藤原帰一の時事小言」)。

でも、幅広い取組を見て考え直すのです。

再犯防止にSDGsを掲げて進んでいるのが、静岡市です。再犯防止は「基礎自治体が主役！」と力強く宣言。「市民の暮らしの一番近いところで、寄り添った支援が可能」「社会復帰に向けて最初に必要な支援を担う」との立場を打ち出しています。

たやすい道のりではないのですが、推進するために、SDGs 17目標のうち5つの目標を探り上げています。

「誰一人取り残さない」というインクルージョンの考え方は、「地域社会でこそ実現」と意気込みをみせています。



就労支援

学校では、発達段階に応じてキャリア教育が行われています。職業には経済性、社会性、個人性の三要素があるといわれます。3つの動的統一で社会での場所が与えられます。キャリア教育の基礎は、小学校から高校まで時間を積み重ねて行われます。

心構えは時間をかけて準備されます。府中刑務所からは、出所3か月前から行われる就職支援が説明されました。就労支援スタッフやハローワーク職員による面接指導やガイダンスを経て雇用主との採用面接に臨むのです。コレワーク関東が雇用主向けに11月に開いたセミナーでは、事業主から「運転免許の取得状況は」「やる気はどうか」などの質問が出されていました。

地域貢献

地域貢献は枠にはまっていません。苦境を救い、暮らしを応援したり、子供たちを見守ったりもします。

馬術部の窮地を救ったのは、木くずでした。静岡大学馬術部はコロナ禍で運営費の確保に苦労している状況でした。馬の寝床に必要な木くずの確保に年間数十万円かかっていたのです。静岡刑務所では、受刑者の刑務作業で出た木くずがあります。連携協定が締結され、木くずが無償提供されました。馬の寝床として使用後、

堆肥としても活用されます。

横浜刑務所では、神奈川県内の小中学校で使用する下駄箱をオーダーメイドで作っています。ごみ減量を進める手助けもしています。自宅から出る生ごみを土の中の微生物の働きで処理する生ごみ処理容器。試作に試作を重ねて作ったものです。

さりげない心遣いから地域貢献は始まり、地域交流が生まれます。地域貢献は発信されるのを待っています。